

**今日のトピック 拡大軌道に乗る豪州経済（2018年7月）**

**雇用、消費が改善傾向、金融政策は中立姿勢を維持**

**ポイント1 堅調に推移する雇用**

**持ち直してきた個人消費**

- 2018年6月の雇用者数は、短期の変動を均したトレンド値で見ても前月比2.7万人の増加となり、前月の同2.2万人増から加速しました。失業率は同横ばいの5.4%でした。
- 雇用の改善等から、個人消費も持ち直してきました。小売売上高のトレンド値は、17年10月の前年同月比1.9%増を当面の底に、18年5月の同2.8%増まで伸び率を高めています。非資源企業部門の好調が、家計部門に波及してきたと考えられます。

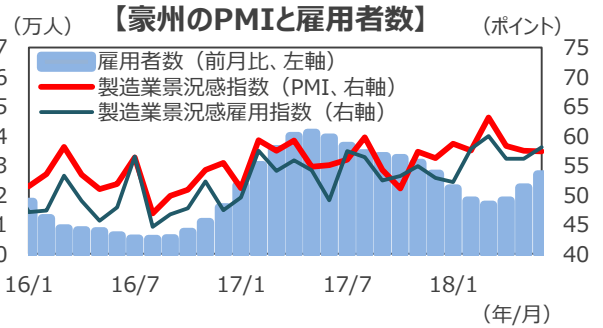
**ポイント2 政策金利は据え置き**

**物価の目標到達まで時間を要する**

- 豪州準備銀行（RBA）は、18年7月3日に開催した金融政策決定会合で、市場の予想通り政策金利を1.50%に据え置きました。
- 議事要旨は、「失業率のさらなる改善と、消費者物価指数上昇率の目標レンジ中央値である2.5%への接近速度が緩慢なため、近い将来の利上げの可能性は低い」と述べています。7月25日に公表された4-6月期の消費者物価指数（異常値をつけた項目を除外したトリム平均値）も、前年同期比1.9%の上昇にとどまりました。RBAは、当面、中立姿勢を維持すると予想されます。

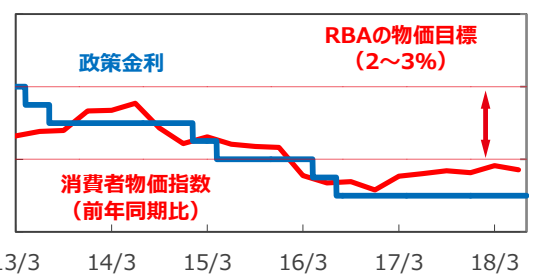
**今後の展開 豪ドルは堅調に推移しよう**

- 豪ドルの対円相場は、18年2月中旬以降、80円台前半での揉み合いの展開となっています。堅調な豪州経済、基調として広がる豪日間の金利差等を踏まえると、豪ドル相場は今後、底堅さをさらに増すと見られます。



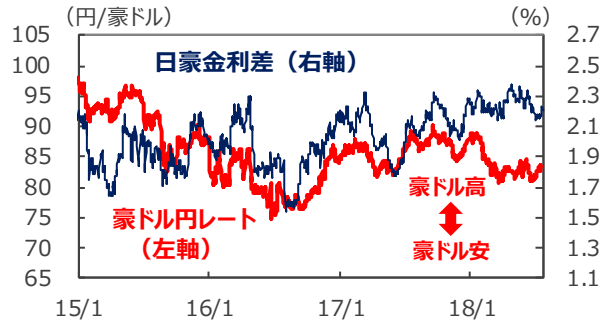
(注) データは2016年1月～2018年6月。雇用者数はトレンド値。  
(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**【消費者物価指数と政策金利】**



(注1) 消費者物価指数は2013年1-3月期～2018年（年/月）4-6月期。消費者物価指数はトリム平均値。  
(注2) 政策金利は2013年3月31日～2018年7月26日。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**【豪ドルの対円レートと日豪金利差】**



(注1) データは2015年1月2日～2018年7月25日。（年/月）  
(注2) 金利差は豪州－日本。金利はともに3年国債利回り。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**ここもチェック!** 2018年7月18日 米国の『景気拡大』は、いつまで続くの？  
2018年7月 3日 豪州の金融政策は中立を維持（2018年7月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。